

# 広島藩の文化水準 私論



お堀越しに見る広島城

18世紀末以降の広島藩は頼春水・春風・杏坪ら頼家一族の評判が高かったため、他国の有識者は広島藩を「文国」と評価していた向きもありました。しかしその実態はどうだったのでしょうか。

本講座では一般の藩士の諸活動と、頼一族以外の文芸活動などを取りあげて、当時の広島藩の文化水準について、ささやかながら私見を述べてみたいと思います。

日時 / 令和元年12月7日(土) 13:30～16:40

会場 / 合人社ウエンディひと・まちプラザ  
(まちづくり市民交流プラザ)  
北棟6階マルチメディアスタジオ  
(広島市中区袋町6番36号)

定員 / 100名(定員を超える場合は抽選)  
受講料 / 750円  
受講対象 / 高校生・一般

## ● 浅野家家中考 (13:30～15:00)

講師 / 中山 富廣(歴史文化学講座 教授)

近世諸藩の政治のあり方(支配)は、その時代の趨勢や藩主の力量、執政(政権担当者)たちの仕事ぶりによって左右されるといえるでしょう。したがって広島藩の政治については、藩主以下執政職にあった藩士たちを考察する必要がありますが、それでは常識的な「通史」しか出てこない可能性もあります。本講義では政権に関与しない一般の家中(藩士)を中心にすえて、新たな広島藩政像を探ってみたいと思います。

## ● 浅野家の文芸と儒者の関わり (15:10～16:40) — 寺田臨川から頼家一族へ —

講師 / 久保田 啓一(日本・中国文学語学講座 教授)

広島藩の文芸・学問といえば、まず頼春水・春風・杏坪の3兄弟と春水の子山陽の名が挙げられます。しかし、それ以前の広島藩の儒者たちの活動は、必ずしも注目されてきませんでした。今回、藩主浅野吉長の侍読寺田臨川(1678-1744)という人物を取り上げ、彼の残した詩文・記録を通して広島藩の文芸の特徴を概観し、頼家一族とは異なる学問のあり方を見つめます。

申込方法: はがき(一人1枚※往復はがきではありません。)に、①講座名、②郵便番号、③住所、④氏名(フリガナ)、⑤電話番号を記入し、下記の宛先へお申込みください。なお、電話・FAXでの申込受付は行っていません。定員を超える場合は抽選となります。

申込先: (公財)広島市文化財団 ひと・まちネットワーク部管理課係  
〒730-0036 広島市中区袋町6番36号

申込期間: 令和元年10月1日(火)～10月31日(木)

【問い合わせ先】

○広島大学大学院文学研究科  
支援室(運営支援担当)  
TEL 082-424-6604  
FAX 082-424-0315

○(公財)広島市文化財団  
ひと・まちネットワーク部 管理課  
TEL 082-541-5335  
FAX 082-541-5611